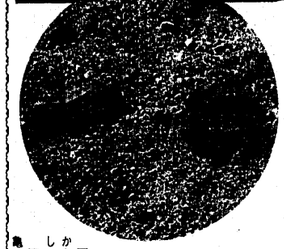
上亀小でカメの子誕生



九月十三日、上土地亀小学校（渡辺保校長、児童数百二十四人）の池で待望の石亀（？）の子が生まれました。昨年までは、卵を生むところまでは確認されていましたが、亀の子がかえったのは、今年が初めてです。

この四月、前任者の田沢用務員さんから亀に関する事項を引き継いだ山田さんが、七月十三日産卵を確認。六十日目の九月十三日、砂を掘ってみると、子亀が八匹出てきたとのこと。現在子亀は、子供たちの人気者になり、スクスク育っています。

写真上は、〝大きくなったかな〟と亀の成長を楽しみにしている子供たち。写真下は、スクスク育つ子亀たち。

五頭山麓〝県民いこいの森〟でバーベキューと豚汁づくり

私達の子供会・㈢ 内島見

昨年、市公民館から御指導いただき、地域住民の理解と自治会団体の御協力を得まして、十一月二十四日、内島見子供会育成会が発足致しました。

会員は、一～六年の小学生で、世帯数九十三、児童数百二十人の大部隊です。そこで子供会の組織は一つですが、上、中、下通りの三班に分かれて活動することが出来るような仕組みにしています。

昨年十二月盛大に発会式を行い、二月十一日に第一回の行事を実施しました。まめまき、モチつき、お楽しみ会などです。今の子供は、モチをきねを持ってうすでつくことをしていません。きねを持たせてモチつきを体験させたことが良かったと思います。モチを食べながら、各班珍芸を楽しみ、親子共々時間を忘れていたようです。

第二回は、各班ごとに実施しました。中通りは七月に木崎小グランドで、ドッジボール大会、豚汁づくり。上通りは七月下旬に五頭県民いこいの森でミニ運動会、豚汁づくり、バーベキュー（父親の奮闘振りに頭が下がりました）下通りは八月中旬に五頭県民いこいの森でカレーづくり、豚汁。公民館でカラオケ大会。各班とも、予想を上回る出席者で、親子共々、和気あいあいと楽しい一日を過ごすことが出来ました。八月には、自治会の御協力を得まして、交通事故をなくす一環として、「幼児とびだし」の立札を設置し、地域の人々から喜ばれています。十一月九日には、親子運動会を計画しています。一つの行事を決め、実行に移すまで、全家庭の理解と各役員の積極的な御協力があればこそだと思います。

今後は、ただ野外に出て、楽しむだけではなく、奉仕活動、廃品回収、親子懇談会、講演会、なども取り入れ、親と子、親と親、子と子の連帯感を盛り上げていって、誰でも「おはようノこんにちは」とあいさつの出来る、またどこの子供でも、同じように注意しあえる、より良い育成会を築きあげたいと思います。

（記事は内島見子供会育成会からの提供）

▲ 親子で屋外スポーツを楽しむ

冷え　全身運動で血行をよくしましょう

手足が冷えて夜寝つかれないなど、冷え症もこうじてくるとつらいものです。冷え症を治すには血行をよくすることが肝心です。

▽冷えの処方せん

血行をよくするには全身運動、入浴などで〝血のめぐり〟をよくするのが良い方法です。指圧、針、灸、乾布まさつも治療効果があがります。また食事は質、量とも不足なくとり、タンパク質、鉄分、カルシウム、ビタミンの摂取に気を配りましょう。

就寝前に少量のお酒、薬用酒を飲むのも冷えをやわらげます。

市民文芸

俳句

豊栄市俳句会

高橋　曲水
定められる生命悔いなし蟬すだく
　　星野　荘城
孫三才掌にりん〳〵と蟬鳴かせ
　　高橋　香雷
空蟬の念力墓碑に縋みつく
松永　松翠
蟬だけの声の中なり昼餉解く
阿部　竜堂
夕蟬にかしまし老樹豆煮立ち
青柳　呼舟
喪装東家を出て来て蟬時雨
小林千恵子
蟬鳴くを聞く耳堅く二つ置き
鎌倉　豊月
メ切りの句稿急かるし蟬時雨
山崎　智盛
酒宴最中呑まずは蟬の声をきく
　　田辺　麥雨
蟬さかん啓ればぬくみの父祖の墓
本田十一郎
少年の日の傷癒し蟬の村
曽我桃水居
夕蟬の一と声高く鳴きいでし
長谷川逸雄
敗戦日三十五年の蟬時雨
高橋　松月
蟬時雨明日と云う日のなき如く
　　渡辺　大山
借衣裳の顔が揃うて披露宴
米田　とみ
原爆の碑に悔深し蟬時雨
笠原　香蘭
生きたくて一声啼けり夜の蟬
高橋　紅夢
一匹の蟬が宝なり子の寝顔
斎藤　土生
蟬鳴くや米価審議も型ばかり
五十嵐柳翠
墓径の途切れに蟬の声揺れて
鈴木　宝竹
蟬時雨樹肌明るく夕陽抱く
小柳　翠歩
朝蟬に生活の鎌を砥に合す
曽田　幸泉
蟬の声抑みて孫に従えり
小熊　茂子
きっぱりと晴れて蟬の音また激し
江口　杏太
乳母車一両去って蟬時雨
阿部登竜子
皆眠る病棟に余る蟬の声

川柳「自由吟」

豊柳会

電機屋と百姓泣かせたこの冷夏
　　橋本　ひろ
お祭がすみ人気ない朝の町
小池　浜
アルコールこうも人を変えてゆく
曽我　天堂
献金がバレ大臣の座すべり落ち
長谷川嵐潮
借衣裳の顔が揃うて披露宴
米田　とみ

短歌

豊栄短歌会

後藤　一夫
わが庭の繁みに居つき鳴く鳥は黒鵐かも図鑑引き見る
長谷川嵐潮
青刈りの刈株なしとわれ思ふ食糧難の戦後おもひば
伊藤　尋氏
ずぶ濡れの祭御祝儀うたってる
三村　豊
ぶら下り山車灯籠の独楽まわす
鹿島　郁子
いらだちを夫に投げる日の涙
高見三左エ門
出枯らしの番茶福祉の味教え
服部　尚二
蠅たたき止められて居る昼寝時
阿部　雅雄
メガトン級並べ破滅へまっしぐら
大倉　貞光
汚職する奴とも思いぬ男振り
大島　残葉
コンバイン寡婦の細腕男並み
本間　重蔵
年輪に喜怒哀楽のしみがあり
臼井さつ子
うらぎった友へうっかり鍵忘れ
佐藤啓四郎
沈黙が静かに肚をさぐり合う
師橋　山雨
治ったらあれもこれもの夢と居る
昌夫
凡人は生きる事こそ一家言
三膳　一男
この道も餌装哀しい下駄の詩
吉川　初枝
むき出しの訛りを笑う虫時雨
井上　睦子
仏様結局わたしの胸に棲み
中川　草舎
よその子をママライバルに仕立てあげ
水田蛙太郎
ユートピアおや手の届きさうな虹
　　長谷川嵐潮
徳利ふり底ひに残るひとしずく手のひらに受けすする甘しも
阿部　志き
涼風に紺地の浴衣洗ひけりすぎにし夏の思ひ出秘めて
丸山　盛一
三年目に遅り来たりて母の吊る蚊張をすがしみ今宵ねむとす
阿部　翠竜
ドライブの車窓に写る名月を孫指さして歓声あぐる
菅川　静路
写したる般若心経愚匂ひ肌さわやかに秋のひとひは
中村　穀
萩の花咲くや寛師をおとなへる尼僧の姿なぞこに顕つ
五十嵐　清
おとなへばあるじまさねど庭ぬちに菊の香りて今盛りなり
吉田　きそ
秋来ぬとつげるに早く虫の声
雨戸閉ざすをしばしためらう
長谷川茂雄
晩秋の馬場に俊馬のいななきて遠山の峯新雪光る

ありがとうございました

○ 豊栄ライオンズクラブ（会長雪井豊作）は、福祉基金として十万円を社会福祉事務所へ寄付

市博物館へ寄贈

○ 市博物館協議会委員一同
○ 市博物館完工記念横額
○ 川瀬利助さん（内島見）根飾り、亀甲竹、盆栽松外
○ 丸山重光さん（豊工業）元禄十三年越後村上・新発田領絵図（表具仕上げ）
○ 佐藤昭三さん（佐藤建設）サハリーローズ（ケース入）
○ 小林新吉さん（長戸呂）蓋もみかご、そり、千石外八点
○ 大野市平さん（長戸呂）石臼

おじいちゃん・おばあちゃん長生きしてね…

9月15日の「敬老の日」、高森児童館の子供たちが、三ツ森地区のお年寄りを訪問、手紙と花のプレゼントをしました。感激したお年寄りから何通かの礼状が届き、子供たちを喜ばせました。